



©うえもんくん

発掘で解る！西伯耆の城館

今回の江美城新聞では、10月8日に米子市山陰歴史館館長の小原貴樹先生を講師としてお迎えして開催された講座の内容をご紹介します！

『発掘された西伯耆の城館跡』

まず室町時代以降の城の変化について、室町期から戦国期には山城ができ始め「築城の最盛期」※とされ、戦国期末から慶長期には大規模化して城下町がつけられます。江戸時代初期は大名の城としておよそ300カ所とおさまります。城館跡は鳥取県内に504カ所あり、西伯耆ではおよそ125カ所あるようです。

時代と共に変化していった城は現在に残っていないものも多くありますが、形が残ってなくても発掘することで解ることがたくさんあるのです。城館の構造の変化していく様子、建物や土塁などの構造、出土した陶磁器などからの年代の推測・生活の様子・経済状況、文献や記録などとの整合性やこれらに載っていない情報を知ることができます。

これまでに発掘された西伯耆の城跡と遺構は、小波城跡・尾高城跡・手間要害・戸上城跡・石井要害・米子城跡・霞要害・江美城跡などです。この中の江美城跡の発掘で出土したもので山陰唯一といわれているのが”金箔鯨瓦”です。なぜここにあるかは様々な説がありますが、金箔が付いている瓦の出土は江美城の重要性を物語っているので、大変貴重な出土品です。



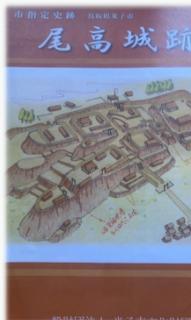
最後は築城される場所の特徴、なぜ現存する城があるのか等の質問がされました。

尾高城跡



現在発掘調査をしている尾高城跡
米子城に続いて国史跡に決定！！

発掘の石垣



縄張り図

縄張り図の写真：一般財団法人 米子市文化財団『市指定史跡
鳥取県米子市 尾高城跡』

11月11日 尾高城跡見学！

江美城を探る会秋のフィールドワークは発掘調査中の尾高城跡の見学に行きました！

尾高城は交通面で重要な場所であったため、「軍事的拠点」※とされており、毛利氏と尼子氏が戦っていた頃、江美城攻略を任されていた毛利方の杉原盛重が拠点としていた場所です。関ヶ原の戦いの後中村一忠が米子城ができるまで尾高城にいましたが、一忠が米子城へ移り、尾高城は廃城となってしまいます。

尾高城跡の見学では米子市埋蔵文化財センターの高橋さんに説明をしていただきました。尾高城跡には現在も深い堀や大きな空堀など残っています。尾高城跡見学の後は、米子市福市考古資料館（左の写真）で尾高城跡の出土品等を見学しました。

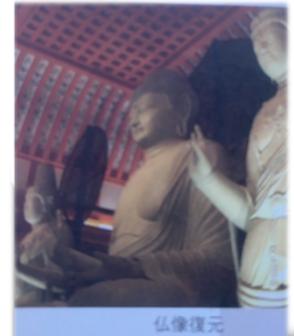


※文章について引用・参考文献
一般財団法人 米子市文化財団『市指定史跡 鳥取県米子市 尾高城跡』
米子市埋蔵文化財センター『尾高城跡ガイド資料』

～上淀白鳳の丘展示館見学～

資料館の後は、お昼ご飯を武庫(一旦)出身の女将さんがおられる皆生旅館「つるや」さんでいただきました。午後は、米子市淀江町にある上淀白鳳の丘展示館と重要文化財の石馬がある天神垣神社の見学をしました。展示館には、水鳥や鹿の形をした埴輪や土器に描かれた弥生時代の風景や武人などの資料がありました。

飛鳥時代に建てられたとされる上淀廃寺には「日本最古級といわれる仏教彩色壁画」※や日本では見られない「3塔1金堂の伽藍配置」※などが発見されており、国史跡指定となりました。展示館には、金堂内に安置されていた如来座像・菩薩立像を原寸大で復元したものが展示してあります。



大迫力！
復元された仏像



※文章について引用・参考文献：一般財団法人 米子市文化財団「米子市伯耆古代の丘公園・上淀白鳳の丘展示館」のパフレット
・米子市文化振興課『上淀廃寺跡』 仏像の写真について：米子市文化振興課『上淀廃寺跡』

「江美城を探る会」1月・2月講座予定

1月21日（日）

2月11日（日）

講座内容：「江美のこと」

講座内容：「日野郡の山名藤幸の
伝承について」

講師：中尾先生

講師：伊田先生

（板裕生記念館副館長）

（日南町教育委員会）

場所：愛ベルこうふ（防災・情報センター）2階 14：00～



©うえもんくん